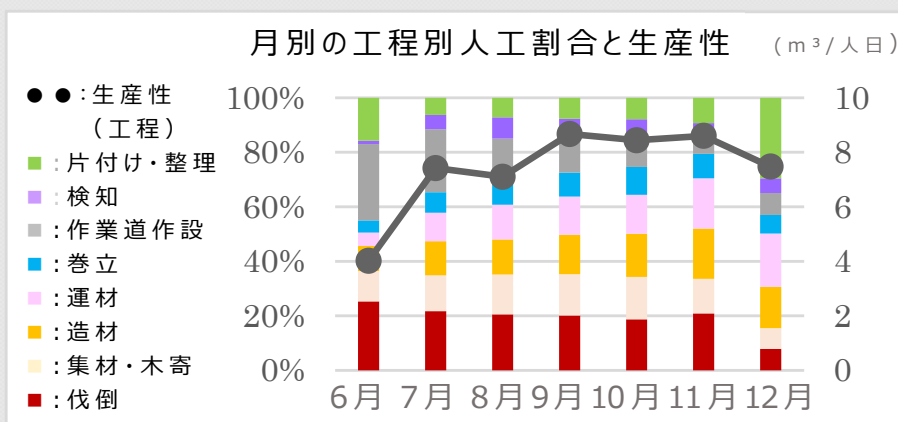


事例 9 生産日報アプリを活用した生産性向上の取組

(関東森林管理局 茨城森林管理署)



- ・茨城県水戸市 茨城森林管理署内
- ・(左)実践報告会(令和8(2026)年2月)
- ・(右)生産データの見える化による工程管理

生産性の高い林業を確立するためには、林業経営体において作業ごとの工程が最適なものとなるよう工夫・改善していくことが重要です。

このため、茨城森林管理署では、令和7(2025)年度から、生産請負事業の全契約(6契約)で生産日報アプリを活用し、日々の生産量や作業時間等を記録するとともに、AIによるデータ分析を取り入れたレポートを提供するなど、請け負った林業経営体の作業改善を後押ししています。

令和8(2026)年2月には、同署の主催による実践報告会を開催し、県内外の民有林関係者43名に対し、6社が報告を行いました。報告会では、生産データの分析により、作業道作設等の準備作業の比率が高い時期は生産性が低下しやすいことが明らかになったことを踏まえ、作業道を完成させてから次の工程に進むのではなく、必要な箇所から段階的に作設することで次の工程へ前倒しで着手できるよう改善を図った事例など、データを基に現場で行われた工夫が共有されました。

同署では、引き続き、データを継続的に蓄積し、AI分析の精度向上を図ることなどにより、林業経営体における作業工程の把握・改善を促進し、生産性向上に取り組んでいきます。